

## 校内選考の仕組み

まず、校内選考とは何か。これは、生徒が①指定校推薦、②付属特別選抜(豊山枠)を用いて進学を希望する際に実施されるもので、教員で選考を実施します。

校内選考の前に、①指定校推薦と②付属特別選抜(豊山枠)について押さえておきましょう。①指定校推薦とは、主に各他大学から豊山高校に与えられる推薦枠の事です。同様に、②付属特別選抜(豊山枠)とは、日本大学の各学部から豊山高校に与えられる推薦枠です。これらの推薦枠数は年度ごとで変動することがあります。特に①指定校推薦において、今年度では推薦枠がない大学でも、来年度には推薦枠がある可能性もあります。その逆もかりですね。そして、①と②のどちらも「推薦要件」を満たしていなければ、校内選考に参加することができません。推薦要件の例は、次の通りです。

〇〇大学	A学科	評定平均値4.0以上
	B学科	評定平均値3.8以上、かつ英検2級以上
	C学科	英語の評定平均4.2以上

繰り返しお伝えしますが、まずは①と②のどちらも上記の例のような「推薦要件」を満たした場合のみ、校内選考に参加することが可能となります。では、「推薦要件」を満たした生徒が指定にある人数枠数よりも多く集まった場合にはどうするのでしょうか。そのとき、我々は「総合序列」を見ます。この「総合序列」とは、基礎学力到達度テストや錬成テストの順位を基にし、これに生活面等の学校生活の様子を加味した順位の事です。つまり、「推薦要件」を満たして校内選考に参加し、たとえ成績優秀であっても、「遅刻が多い」等があれば、選考で悪影響を及ぼすということです。

では、実際に校内選考の例を見てみましょう。この際、推薦枠数は各学科で1名だと考えましょう。

	第1志望	第2志望	第3志望
序列1位A君	A学科	B学科	—
序列2位B君	B学科	A学科	C学科
序列3位C君	B学科	A学科	C学科
序列4位D君	C学科	D学科	E学科
序列5位E君	A学科	B学科	C学科

もちろん、上記の5名は「推薦要件」を満たしている生徒で考えています。この場合、各生徒は校内選考によって色のついた学科に出願することができることになります。ここで注意したいのが、第1志望順に見ていくのではなく、序列の高い生徒の第1志望から第3志望を見ていくということです。これは、D君を見れば明らかですね。D君の第1志望はC学科になっていますが、序列3位のC君が第3志望でC学科を希望しています。序列が高いのはC君ですから、先にC君が校内選考によりC学科の出願の権利を持つということになります。そのため、D君は第1志望にC学科を希望しましたが、第2志望のD学科の出願資格を得ることになります。因みに序列5位のE君は校内選考で不通過ということになりますので、出願することはできません。

そして、もう1点注意してほしいことがあります。「推薦要件」にあった「評定平均値」という言葉についてです。この「評定平均値」とは、高校1年次から高校3年次までの各科目の評定の平均値というものです。つまり、高校1年次からの評定が含まれる、ということです。高1は、テストの科目数も非常に多く、良い評定を取るの大変だと思いますが、周りが受験モードになっていない今がチャンスです。来週から定期テスト②が始まります。積み重ねが大切ですので、頑張ってください。

## R6 進路調査 結果発表

例年通り、全学年で理工学部が1位に！  
文理学部や経済学部の人気も継続中！

高1				
Rank		R06		R05
1	理工	25.2	理工	29.9
2	文理	18.8	文理	19.1
3	経済	14.3	経済	16.2
4	法	12.8	法	7.5
5	商	8.6	芸術	6.1

高校全学年を対象に、進路調査が実施されました。志望校の調査だけではなく、「1日の平均学習時間」や「進路の決定時期」、および「志望校決定理由」といった内容の質問もありました。また、左の表にはありませんが、第1志望校が決まっていない割合は、高1が12.9%、高2が6.9%、高3が0.8%となっていました。

これらの結果から学年が上がるにつれて、自身の進路に対して真剣に考え、そして日々どのように向き合い、対策を取っているかが分かる資料となりました。



高2				
Rank		R06		R05
1	理工	31.6	理工	26.0
2	文理	18.0	文理	19.2
3	経済	14.9	経済	15.6
4	法	12.3	法	13.1
5	生物	6.0	商	10.7

高3				
Rank		R06		R05
1	理工	24.7	理工	25.8
2	経済	17.7	経済	20.3
3	法	16.3	文理	15.0
4	文理	16.0	法	12.6
5	商	10.7	商	10.7

\*\*\*\*\*

## 特進他大学説明会 報告

6月23日(金)5時間目から7時間目に特進他大学説明会を実施しました。今回、豊山に来校して下さった学校は以下の通りです。

上智・明治・中央・法政・東京理科・成城・神田外語・北里 明治薬科・東京薬科・東京農業・日本医療科学 防衛大・防衛医科大・日本外国語専門
---



内容については、大学の概要から入試制度まで多岐に渡っていました。また、7時間目には多くの進学・体育クラスの生徒が参加してくれました。生徒が聴講する態度についても、各大学の担当者からお褒めの言葉を戴きました。事前に配布されたメモを活用したり、説明後に積極的に質問したりする様子を評価して下さったようです。

この説明会が、オープンキャンパスへの参加のきっかけとなったり、受験校を考える際の一つの材料となれば幸いです。また、当日の配布資料の残部を自習室前に置いておきましたので、進学体育クラスを含め、自由に手に取ってみてください。



# 日大付属推薦・指定校推薦

日大付属推薦は大きく分けて、3つに分かれます。

①基礎学力選抜②付属特別選抜(豊山梓・付属梓)③国公立併願方式です。

## ① 基礎学力選抜

基礎学力到達度テストによる順位を基にします。高2の4月・高3の4月・高3の9月の合計3回のテストの標準化得点によって付属生内での順位が確定し、その順位を把握した上で、第1志望から第3志望までセクションに出すことができます。

## ②その1 付属特別選抜(豊山梓)

総合序列や評定・資格を基にして校内選考を実施します。詳細は前ページにある『校内選考の仕組み』を参照してください。校内選考通過後は、必要書類を提出した後、学部学科の指定する選考(面接・小論文・口頭試問等)を受けます。

## ②その2 付属特別選抜(付属梓)

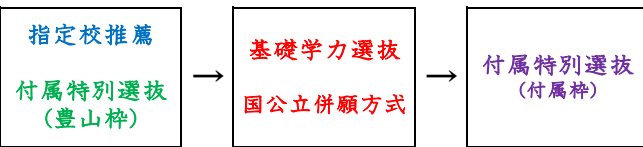
評定・資格を基にします。こちらは校内選考を実施せずに行われます。付属生全体の中で数名が募集され、実施している学部学科も限定されます。応募した者は学部学科の指定する選考(面接・小論文・口頭試問・実技等)を受けます。基礎学力選抜のセクションや付属特別選抜(豊山梓)の校内選考の後に付属全体で実施されます。

## ③ 国公立併願方式

基礎学力到達度テストによる順位や評定・履修科目を基にします。セクションが一度だけ実施され、第1志望から第3志望までエントリーできます。国公立大学の一般選抜を受験する予定の人が対象です。

以上が、日本大学への付属推薦における概要です。他にも追加募集がありますが、年度によって実施の有無が分かれますので記載していません。

## 実施の流れ(簡略版)



続いて、指定校推薦について説明します。

指定校推薦とは、大学が本校を指定して、個別に推薦枠を設けている推薦方式です。実際に本校から進学した生徒の大学内での成績等が良好である場合や進学者や合格者の人数が多い場合などにより、本校が指定校推薦の対象となります。毎年、募集人数や推薦条件等が変更されます。

指定校推薦の募集枠は、おおむね1つの学科あたり1~2名ほどです。そのため、募集条件に合致していても、募集枠以上の応募がある場合は校内選考をする必要があります。詳細は前ページにある『校内選考の仕組み』を参照してください。校内選考通過後は、必要書類を提出(出願)した後、学部学科の指定する選考(面接・小論文・基礎学力検査・口頭試問等)を受けます。その後、合格を戴いたら必ず進学をしなければいけません。

## 指定校推薦の注意点

### ① やりたい分野を見つける → 指定校推薦だけを狙わない

まず自分の学びたいことをはっきりさせましょう。そのうえで志望校(学部・学科)を決めることが肝要です。自分の学びたいことに合致する学部・学科を調べましょう。指定校推薦の大学・学部・学科は毎年変わります。指定校推薦にこだわりすぎて、自分の学びたいことを変更することがないようにしましょう。高3になって、第1志望の大学・学部・学科が指定校推薦で受験できるなら校内選考に申し込むという心構えが良いでしょう。

### ② 資格・履修・条件に注意 → 英検等の検定にも受験しよう

評定だけでなく、英語の資格が必要であったり、共通テストを受験することが条件であったり、大学・学部・学科によって出願条件は様々です。

# 文理学部体験授業

6月16日(日)に、日本大学文理学部にて「体験授業」が行われました。この体験授業は、日本大学の付属高校生を対象に行われ、それぞれが希望した30分×3学科の講義を聴きました。

昨年度までは9月に実施されていたものが6月になり、高3も多く参加することができました。当日は学食の体験やキャンパス見学もでき、一足先にオープンキャンパスを体験できたような一日となりました。

講義内容も、高校の授業で学んでいる内容の発展的な内容で、参加した生徒も「わかりやすく、興味深かった」と話していました。引率教員にとっても「キリンの首が長いのは『性選択だ!』』ということを学べ、有意義な時間を過ごせました。

来年度が同じ時期の実施かどうかはわかりませんが、次年度もより多くの生徒が参加してくれることを期待しています。



\*\*\*\*\*

## 7月の進路行事

- 7月16日(火) 社会人セミナー (高2)
- 7月17日(水) 日本大学学部説明会 (高2・希望者)

※この夏休みはオープンキャンパスに足を運ぶ貴重な機会です。積極的に4~5つの大学に行くようにしましょう!

月
日
一
二
三
四
金
土
日直

7月16日(火)の高2対象社会人セミナーは、昨年度と同様対面式で行います。前回は講師の方々から皆さんの熱心さについて高評価をいただいています。今回はまた別の社会人の方々ですので、新しい発見や気づきがあることを期待しています。聴講できる講義は一度きりですので、事前に質問を考えておくなどして、積極的な姿勢で受けてください。

7月17日(水)の高2進学と、高2特進・高3の希望者対象日大学部説明会は、オンライン形式で行われ、生徒は自宅からZoomを利用して参加することになります。付属高校向けの説明会になりますので、他では聞けない内容になります。Zoomは事前に氏名の表示や顔出しのルールを確認してください。学部によって内容は大きく異なりますので、しっかりとメモを取り、必要なことは質問をするようにしましょう。

近年高3受験時に、日大付属推薦と並行して日大の総合型選抜に挑戦する生徒が増えています。付属生にとっては第1志望とする日大の学部・学科に2回挑戦できることになり、メリットと言えるでしょう。一方で、総合型選抜はこれまでの長期的な取り組みと入学後のビジョンが問われることから、受験準備に膨大な時間を取られます。また日大の総合型選抜と日大付属推薦を併願する場合には、付属推薦においては総合型選抜で出願している学部には出願できませんので注意しましょう。総合型選抜を考えている生徒は、早めに担任に相談することをお勧めします。

次回8・9月号は、7月18日(木)発行予定です